

〔公印省略〕

19 健第 20658 号

平成 19 年 12 月 7 日

久留米医師会長

小郡三井医師会長

大川三瀬医師会長

浮羽医師会長

殿



福岡県久留米保健福祉環境事務所長

(健康対策課感染症係)

高齢者施設及び医療機関における嘔吐・下痢症者の集団発生事例
(第 2 報) 及び感染性胃腸炎流行発生警報について

このことについて、当所管内で 1 医療機関から発生報告があり、別紙 1 のとおり、県健康対策課より報道発表いたしましたのでお知らせします。

また、感染症法に基づく感染性胃腸炎の平成 19 年 48 週(11 月 26 日～12 月 2 日)の 1 定点医療機関あたりの報告数が 26.71 となり、流行発生警報の開始基準の 20 を超えたので、別紙 2 のとおり報道発表しておりますので併せてお知らせします。

福岡県久留米保健福祉環境事務所
健康対策課感染症係 担当：宮本、高棕
TEL 0942-30-1054
FAX 0942-38-0680



小郡三井医師会より

担当理事 島田昇二郎

平成19年12月7日 時 分

保健福祉部健康対策課
結核感染症係 池内・野田
内線 3136
直通 643-3268

高齢者施設及び医療機関における嘔吐下痢症者の 集団発生について

1 概要

12月6日、筑紫保健福祉環境事務所管内の高齢者施設及び久留米保健福祉環境事務所管内の医療機関で、嘔吐下痢の症状を有している入所者及び入院患者が集団発生している旨、両事務所から報告があったもの。

2 有症状者発生状況（12月7日現在）

（1）筑紫保健福祉環境事務所

①施設概要

高齢者施設

春日市・

入所者 80名、職員 28名

②探知日

12月5日

③発症日

11月16日から12月6日

④有症状者状況

入所者 25名、職員 12名

（重症者はいない）

	11/16	/17	/18	/19	/20	/21	/22	/23	/24	/25	/26
新規発症者数	1	0	0	2	0	2	1	0	0	0	1
有症状者数	1	0	0	2	0	2	1	0	0	0	1
	11/27	/28	/29	/30	12/1	/2	/3	/4	/5	/6	計
新規発症者数	0	1	0	0	1	4	5	15	3	1	37
有症状者数	0	1	0	0	1	4	6	16	6	4	

内訳）

入所者：年齢 70代 4名、80代 13名、90代 8名（70～96歳）

（男性 9名、女性 16名）

職員：年齢 20代 7名、30代 2名、50代 3名（21～55歳）

（男性 4名、女性 8名）

⑤検査状況

1名からノロウイルス検出

（2）久留米保健福祉環境事務所

①施設概要

医療機関

久留米保健福祉環境事務所管内（久留米市、小郡市、大川市、うきは市、三潞郡、三井郡）

②探知日

12月6日

③発症日

12月2日から12月6日

④有症状者状況

入院患者 16名、職員 5名

（重症者はいない）

	12/2	/3	/4	/5	/6	計
新規発症者数	1	1	9	3	7	21
有症状者数	1	1	10	13	10	

内訳）

入院患者：年齢 70代 1名、80代 2名、90代 12名、100代 1名（79～100歳）

（男性 2名、女性 14名）

職員：年齢 20代 1名、30代 2名、40代 1名、50代 1名（28～58歳）

（男性 2名、女性 3名）

⑤検査状況

検査中

3 感染予防のポイント

- ・患者のふん便や吐ぶつには大量のウイルスが排出されるので、
 - ①食事の前やトイレの後などには、必ず手を洗いましょう。
 - ②下痢やおう吐等の症状がある方は、食品を直接取り扱う作業をしないようにしましょう。
 - ③胃腸炎患者に接する方は、患者のふん便や吐ぶつを適切に処理し、感染を広げないようにしましょう。
- ・特に、子どもやお年寄りなど抵抗力の弱い方は、加熱が必要な食品は中心部までしっかり加熱して食べましょう。また、調理器具等は使用後に洗浄、殺菌しましょう。

【特記事項】 感染者及び家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から資料提供の範囲内での報道をお願いします。

感染症発生動向調査情報

感染性胃腸炎

流行発生警報

平成19年12月7日

健康対策課結核感染症係

担当：池内・大石

内線：3127・3136

直通：643-3268

福岡県において、感染性胃腸炎の報告数が増加しています。

十分注意が必要です。お知らせします。

1. 最近の感染性胃腸炎の流行状況

感染性胃腸炎の報告数が増加してきました。

感染性胃腸炎は、現在、県内120医療機関から報告をいただいておりますが、平成19年第48週（11月26日～12月2日分）の一定点医療機関あたりの報告数が26.71となり、流行発生警報の開始基準の20を超えました。

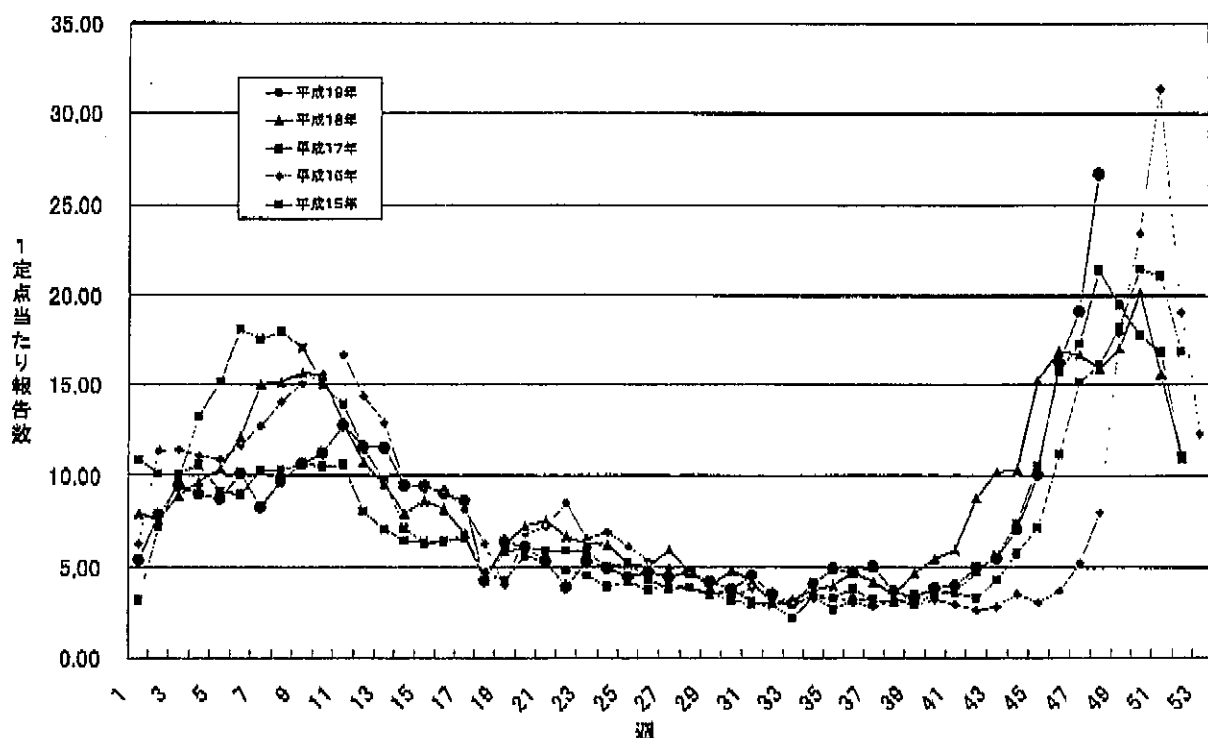
地域別では、定点当たりで筑後地区（34.04）、北九州地区（26.38）、福岡地区（26.06）、筑豊地区（17.71）の順となっています。

表 福岡県の感染性胃腸炎の発生状況

		平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
10月	第43週	4.30	2.80	5.61	10.19	5.47
	第44週	5.80	3.52	7.42	10.34	7.07
11月	第45週	7.19	5.22	10.54	15.26	10.07
	第46週	11.17	3.68	15.74	16.88	16.22
	第47週	15.16	5.22	17.30	16.72	19.14
	第48週	16.08	8.03	21.43	15.85	26.71
12月	第49週	18.23	17.93	19.47	17.03	—
	第50週	21.51	23.43	17.78	20.18	—

（1 定点医療機関あたりの報告数）

グラフ 福岡県の感染性胃腸炎の発生状況



2. 感染性胃腸炎とは

急に発症する腹痛、嘔吐、下痢の症状を呈するもの。原因病原体としては、カンピロバクター属・サルモネラ属・腸炎ビブリオなどの細菌、ノロウイルス・ロタウイルスなどがあります。

夏季は腸炎ビブリオ、冬季はロタウイルス（乳幼児）、秋から春にかけてはノロウイルスが多く検出されます。

3. ノロウイルスとは

人の小腸粘膜で増殖するウイルスで、特に11月から3月にかけて胃腸炎を起こします。

また、感染経路はほとんどが経口感染で、次のようなことが考えられます。

- ① 汚染された貝類を、生あるいは十分に加熱調理しないで食べた場合
- ② 食品を取り扱う者が感染し、その者を介して汚染した食品を食べた場合
- ③ 患者のノロウイルスが大量に含まれる糞便や嘔吐物から人の手などを介して二次感染した場合
- ④ 家庭や共同生活施設などの人同士の接触する機会が多いところで人から人へ飛沫感染等直接感染する場合
- ⑤ ノロウイルスに汚染された井戸水や簡易水道を消毒不十分で摂取した場合

※最近、吐物や便に含まれたノロウイルスは、乾燥すると容易に空中に漂い、これが口に入って感染することがあると言われており、この経路が疑われる感染が多く報告されています。

4. ノロウイルスの症状は

潜伏期間（感染から発症までの時間）は24～48時間で、主症状は吐き気、嘔吐、下痢、腹痛であり、発熱は軽度です。通常、これら症状が1～2日続いた後、治癒し、後遺症也没有ありません。また、感染しても発症しない場合や軽い風邪のような症状の場合もあります。

5. 感染予防のポイント

- ① 感染症の最も有効な対策は手洗いです。トイレを使用した後、調理の前、食事の前には必ず手洗いをしましょう。
- ② 部屋やトイレで吐いた場合は、部屋の換気を十分に行いながら、吐物を拭き取り、拭き取ったあとを次亜塩素酸ナトリウムで浸すように床を拭き取り、その後水拭きしましょう。

6. 感染性胃腸炎にかかった場合

- ① 体力の弱い乳幼児や高齢者は、脱水症状を起こしたり、体力を消耗したりしないように、水分と栄養の補給を充分に行いましょう。
- ② 脱水症状がひどい場合は、病院で輸液を行うなどの治療が必要になりますので、かかりつけ医等に受診しましょう。